

平成二十五年年度第三期くまもと俳句ポスト

第三期開函

日本伝統俳句協会理事 岩岡 中正 選

特選

山粧ふ肥後の小さき木の葉駅

長崎県諫早市

麻生勝行

【講評】「山粧ふ」は、紅葉で山が彩られることですが、この美しい季語が秋の旅情を高めています。「木の葉駅」という美しいユニークな駅名に注目されたところがすぐれた句です。心もまた紅葉に照り映えながら旅する人を心豊かに描いて、どこかなつかしい郷愁を誘う一句です。

入選

白梅を活けてもてなす旧居かな  
いつみてもきれいなみどり熊本城  
白梅の白さに朝の明けにけり

熊本県熊本市 野口美智子  
熊本県熊本市 阿部舞香  
熊本県玉名郡 宮中康雄

佳作

つり橋を揺らす谷風球磨の冬  
この家も早七つ目ぞ漱石忌  
凍つる夜や万物を止める如  
亡き父の青春時代想う秋  
君の名を心に抱いて歩む春  
雪化粧車窓遙かに阿蘇の峰  
漱石の片手は猫に冬座敷  
福ぶくろ今年の夢がつまつてる  
宵闇にくつきり浮かぶ冬の城

熊本県熊本市 岡崎信五  
熊本県熊本市 吉井巧  
熊本県熊本市 林田秀久  
愛知県名古屋古屋市 坪井朋子  
熊本県熊本市 古澤利恵子  
熊本県熊本市 石田人成  
東京都文京区 小西弘子  
熊本県熊本市 近藤加奈  
熊本県熊本市 上田千加

投句総数

九七句

市外

三二句

市内

六五句

開函日 平成二十六年二月二十八日